
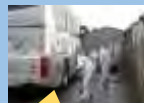








## 9 訓練イベント時刻

<意思決定訓練>

| 場所    | 官邸・ERC<br>(本訓練ではOFC)     | OFC<br>(北海道原子力防災センター)   | 道災対本部<br>(道庁)   | 町村災対本部<br>(13町村)   |
|-------|--------------------------|---|---|--|
| 実施内容等 | ○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議) | ○現地事故対策連絡会議 (TV会議)<br>○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議)<br>○各機能班活動                           | ○災害対策本部員会議<br>○現地事故対策連絡会議 (TV会議)<br>○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議)<br>○指揮室運営 (8:45~14:30) | ○災害対策本部員会議<br>○現地事故対策連絡会議 (TV会議)<br>○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議) 等                       |
| 8:45  |                          | 8:45~9:00<br>現地事故対策連絡会議   |   | 13町村長 (TV会議)   |
|       |                          |   | 9:00~9:20<br>道災害対策本部員会議   | 9:00~9:20<br>町村災害対策本部員会議   |
| 9:30  | 9:45 緊急事態宣言              |   |   |  |
| 9:45  | 官邸 (TV会議)                | 副知事<br>副町村長ほか   | 9:50~10:05<br>第1回原子力災害合同対策協議会全体会議   | 13町村長 (TV会議)   |
|       |                          |    | 10:05~10:25<br>道災害対策本部員会議   | 10:05~10:25<br>町村災害対策本部員会議   |
| 10:30 |                          |   |   |  |
| 11:00 | 48時間経過を想定                |   |   |  |
| 11:30 |                          | 11:15頃~<br>第×回原子力災害合同対策協議会全体会議  | 副知事<br>副町村長ほか   | 13町村長 (TV会議)   |
| 12:00 |                          |  | 11:30~11:45<br>道災害対策本部員会議   | 11:30~11:45<br>町村災害対策本部員会議   |
| 12:15 |                          |   |   |  |
| 13:00 |                          |  |   |  |
| 14:00 |                          | 14:00頃~<br>第Y回原子力災害合同対策協議会全体会議  | 副知事<br>副町村長ほか   |  |
| 訓練終了  |                          |   |   |  |

<実動訓練>

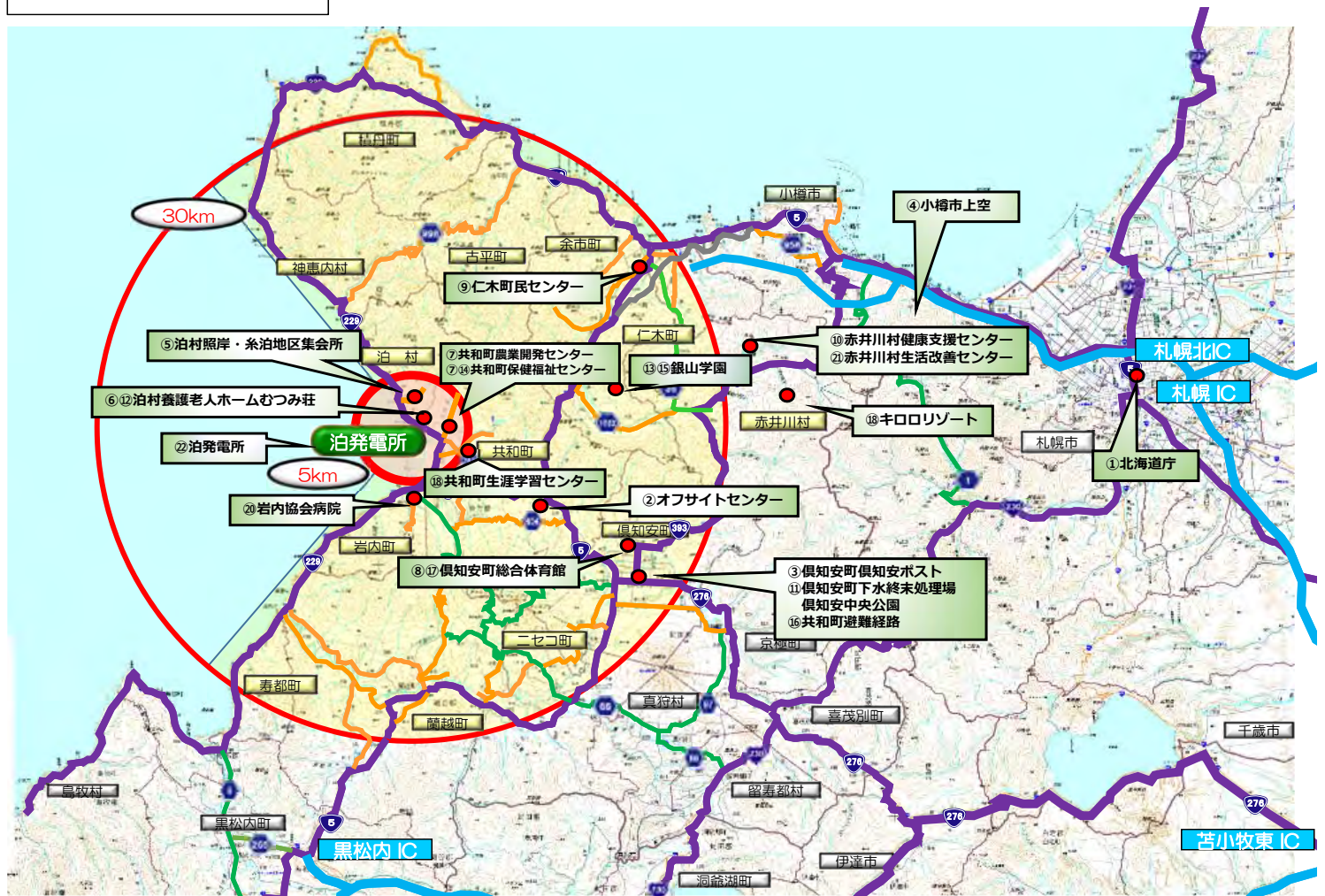
| 実施内容等 | 実動訓練  |  |   |  |                                     |   |                      |   |
|-------|---|--|---|--|-------------------------------------|---|----------------------|---|
| 9:00  |   |  |   | 安定ヨウ素剤緊急戸別配布                               |                                     |   |                      | 原子力災害情報の多言語による提供  |
| 9:30  | PAZ施設敷地緊急事態要避難者バス集合場所開設   | 放射線防護施設の運用<br>泊村役場・むつみ荘<br>9:10~09:40                          | 放射線防護施設の運用<br>共和町保健福祉センター<br>9:00~09:30 | 共和町8:35~9:40頃                              | 放射線防護施設の運用<br>仁木町銀山学園<br>9:00~09:30 | 車両動態管理・情報伝達   | 感染症流行下での台風に伴う避難所運営   | 9:00~12:00頃   |
|       | 泊村照岸・糸泊地区集会所<br>9:00~10:30  | PAZ要配慮者PAZ住民<br>泊村養護老人ホームむつみ荘<br>9:40~10:10頃                   | PAZ要配慮者PAZ住民屋内退避                        | 被ばく傷病者搬送                                   |                                     | オフサイトセンター<br>8:45~14:30   |                      | 俱知安町総合体育館:<br>9:00~11:30頃   |
| 10:00 | PAZ住民バス集合場所開設   |  | 農業開発センター~保健福祉センター<br>10:00~10:10頃       | 救急車出動 9:00頃<br>↓<br>岩内協会病院<br>傷病者受入:10:10頃 |                                     |   |                      |   |
| 10:30 | 泊村堀株泊地区集会所<br>10:00~10:30   |  |   |  | 泊発電所<br>事故拡大防止                      | 緊急時モニタリング   | 住民広報(全面緊急事態)         | 避難退域時検査   |
|       | 外国人住民・観光客向け相談等対応  |  |   |  | 泊発電所<br>10:00~12:00頃                |  | 道HP掲載ツイッター<br>10:00頃 |    |
|       | 道庁別館<br>10:50~11:20   |  |   |  | 道路カメラ映像伝送                           |  |                      | キロロリゾート(車両検査住民検査)<br>10:45~14:30頃   |
| 11:00 |   | UP2住民一時移転  |   | 警察官による避難経路緊急迂回誘導                           |                                     | モニタリングカー等の出動 9:30以降OFC出発  | 住民広報(一時移転)           |    |
| 11:30 |   | 共和町出発:11:30頃<br>俱知安町出発:11:30頃<br>仁木町出発:11:40頃<br>赤井川村出発:11:30頃 |   | 俱知安町<br>11:15~13:00                        |                                     | 可搬型モニタリングポストによる代替測定(俱知安ポスト)<br>9:45~10:15頃  | 道HP掲載ツイッター<br>11:30頃 |   |
|       |   |  | 安定ヨウ素剤緊急配布<br>仁木町:11:30頃~               | 発電機による電力供給<br>赤井川生活改善センター<br>11:30~14:30頃  |                                     |   |                      |  |
| 12:00 | 下水終末処理場へリ到着12:30頃<br>俱知安中央公園へリ着陸12:50頃  |  |   |  |                                     | ヘリテレ映像伝送  |                      |  |
| 12:30 | 孤立住民救出(へリ)  |  | 銀山学園<br>装甲車到着:12:30頃<br>装甲車出発:12:45頃    |  |                                     | ヘリテレ表示<br>12:00~12:10頃  |                      |   |
| 13:00 |  |  | 孤立住民救出(装甲車)                             |  |                                     |   |                      |   |
| 13:30 |   |  |   |  |                                     |   |                      |   |
| 14:00 |   |  |   |  |                                     |   |                      |   |
| 14:30 |   |  |   |  |                                     |   |                      |   |
| 訓練終了  |   |  |   |  |                                     |   |                      |   |

10 住民避難訓練整理表

| 避難元町村  | 輸送手段等   | 避難退域時検査  | 一時滞在場所 | 避難先                                     |
|--|---|--|--------|---|
| <p>泊村(PAZ)</p> <p>↓</p> <p>むつみ荘</p> <p>在宅要配慮者の放射線防護施設への屋内退避(1名)</p>      | <p>バス集合場所の開設及び住民受付<br/>(バスでの避難は想定)<br/>&lt;住民見立て職員&gt; 9人</p>   |  |        | <p>代替避難施設<br/>ガトーキングダムサッポロ<br/>【想定】</p> |
| <p>共和町(PAZ)</p> <p>↓</p> <p>保健福祉センター</p> <p>在宅要配慮者の放射線防護施設への屋内退避(1名)</p> |   |  |        |   |
| <p>共和町(UPZ)</p>  | <p>&lt;住民見立て職員&gt; 4人<br/>&lt;その他訓練要員&gt; 1人<br/>町所有バス1台<br/>&lt;その他訓練要員&gt; 1人<br/>普通車両1台</p> <p>&lt;住民見立て職員&gt; 1人<br/>福祉車両1台</p> | <p>ルスツリゾート<br/>(留寿都村)<br/>※検査は想定</p> <p>キロロリゾート<br/>(赤井川村)</p> |        | <p>洞爺湖温泉街<br/>【想定】</p>                  |
| <p>俱知安町</p>  | <p>&lt;住民見立て職員&gt; 6人<br/>&lt;その他訓練要員&gt; 1人<br/>借バス1台</p> <p>&lt;その他訓練要員&gt; 3人<br/>自衛隊ヘリ1台</p>                                    | <p>キロロリゾート<br/>(赤井川村)</p>                                      |        | <p>苫小牧市総合体育館<br/>【想定】</p>               |
| <p>仁木町</p>   | <p>&lt;住民見立て職員&gt; 5人<br/>&lt;その他訓練要員&gt; 1人<br/>借バス1台</p> <p>&lt;住民見立て職員&gt; 4人<br/>自衛隊装甲車2台</p>                                   | <p>キロロリゾート<br/>(赤井川村)</p>                                      |        | <p>手稲区体育館</p>                           |
| <p>赤井川村</p>  | <p>&lt;住民見立て職員&gt; 6人<br/>&lt;その他訓練要員&gt; 1人<br/>借バス1台</p>  | <p>キロロリゾート<br/>(赤井川村)</p>                                      |        | <p>キロロリゾート<br/>(赤井川村)</p>               |
| <p>その他</p>   | <p>&lt;その他訓練要員&gt; 3人<br/>借バス1台<br/>普通車両1台<br/>(避難退域時検査のみ実施)</p>  | <p>キロロリゾート<br/>(赤井川村)</p>                                      |        |   |

※この他、岩内町は訓練想定とは別に、独自に住民見立て職員によるバス集合場所までの避難訓練を実施。

# 11 訓練実施場所図



|  |   |
|--|---|
| ①北海道庁（札幌市中央区北3条西6丁目）                                 | 災害対策本部等設置運営訓練【8:30～14:30頃】<br>原子力災害情報の多言語化翻訳・発信、外国人避難者対応訓練【9:00～12:00頃】 |
| ②オフサイトセンター（共和町南幌似141-1）                              | 緊急事態応急対策等拠点施設運営訓練【8:30～14:30頃】<br>緊急時モニタリング実動訓練（モニタリングカーの出動）【9:30頃】     |
| ③倶知安町倶知安ポスト  | 緊急時モニタリング実動訓練（可搬型モニタリングポストによる代替測定）【9:45頃】                               |
| ④小樽市上空等  | 緊急時モニタリング実動訓練（航空機によるモニタリング）【11:00頃】                                     |
| ⑤泊村照岸・糸泊地区集会所  | バス集合場所開設訓練【9:00頃】   |
| ⑥泊村養護老人ホームむつみ荘                                       | 要配慮者避難訓練【9:40頃】   |
| ⑦共和町農業開発センター、共和町保健福祉センター                             | 要配慮者避難訓練【10:00頃】  |
| ⑧倶知安町総合体育館   | UPZ住民一時移転訓練【11:30頃】   |
| ⑨仁木町民センター  | UPZ住民一時移転訓練【11:40頃】   |
| ⑩赤井川村健康支援センター  | UPZ住民一時移転訓練【11:30頃】   |
| ⑪倶知安町下水終末処理場（倶知安町南11条東1丁目34）<br>倶知安中央公園（倶知安町南3条東4丁目） | 浸水家屋等からのヘリによる吊り上げ救助訓練【12:30～12:50頃】                                     |
| ⑫泊村養護老人ホームむつみ荘                                       | 放射線防護施設運営訓練【9:10～9:40頃】   |
| ⑬銀山学園（仁木町銀山2丁目134）                                   | 放射線防護施設運営訓練【9:00～9:30頃】   |
| ⑭共和町保健福祉センター（共和町南幌似57-12）                            | 放射線防護施設運営訓練【9:00～9:30頃】   |
| ⑮銀山学園（仁木町銀山2丁目134）                                   | 孤立地区からの装甲車による避難訓練【12:30～13:30頃】   |
| ⑯共和町避難経路（倶知安町内ほか）                                    | 避難経路緊急迂回誘導訓練（ブラインド方式）【11:00～12:30頃】                                     |
| ⑰倶知安町総合体育館（倶知安町南3条西4丁目3）                             | 感染症流行下での複合災害に伴う避難所運営訓練【9:00～11:30頃】                                     |
| ⑱共和町生涯学習センター   | 安定ヨウ素剤緊急戸別配布訓練【8:35頃】<br>バス集合場所開設訓練【10:50頃】                             |
| ⑲キコロリゾート（赤井川村常盤128番地1）                               | 避難退域時検査訓練【10:45～14:30頃】   |
| ⑳岩内協会病院（岩内町字高台209-2）                                 | 被ばく傷病者緊急搬送訓練【9:00頃】   |
| ㉑赤井川村生活改善センター  | 電力供給訓練【11:30～14:30頃】  |
| ㉒北海道電力（株）泊発電所（泊村大字堀株村）                               | 泊発電所事故拡大防止訓練【10:00頃】  |

## 12 事前準備・結果報告等

### (1) 会議等

地元自治体や防災関係機関との会議等を開催し、訓練計画・項目・内容などについて、協議・調整を行うとともに、実施結果について報告を行った。

| 開催年月日        | 会議名等                                    |
|--------------|---|
| 令和3年 4月 28日  | 原子力防災関係機関担当者会議（国、後志管内13町村、防災関係機関）※TV会議  |
| 令和3年 8月 2日   | 原子力防災に関する連絡会議（関係市町村）※TV会議               |
| 令和3年 9月 16日  | 原子力防災関係機関担当者会議（国、後志管内13町村、防災関係機関）※TV会議  |
| 令和3年 10月 18日 | 原子力防災関係機関担当者会議（国、後志管内13町村、防災関係機関）※TV会議  |
| 令和3年 10月 18日 | 泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内13町村、防災関係機関）※TV会議 |
| 令和3年 11月 2日  | 北海道防災会議幹事会                              |
| 令和3年 11月 15日 | 北海道防災会議                                 |
| 令和3年 12月 23日 | 原子力防災関係機関担当者会議（国、後志管内13町村）※TV会議         |
| 令和4年 2月 3日   | 原子力防災関係機関担当者会議（国、後志管内13町村、防災関係機関）※TV会議  |
| 令和4年 2月 3日   | 泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内13町村、防災関係機関）※TV会議 |

### (2) 北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員会

北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員から訓練内容について専門的見地からの意見を伺うとともに、有識者専門委員（学識経験者）による訓練視察を行った。

- ・令和3年10月11日 有識者専門委員会
- ・令和3年10月28日 有識者専門委員による訓練視察

### (3) 住民等への周知

訓練の実施について、道及び関係13町村のホームページや広報誌への掲載のほか、「原子力防災だより」等の各戸への配付を通じて、住民への周知を行った。

- ・令和3年 9月～ 関係町村広報誌に掲載
- ・令和3年10月 「原子力防災だより」を後志総合振興局管内の全戸に配付
- ・令和3年10月 道ホームページに訓練実施要綱掲載
- ・令和3年10月 道ホームページに「原子力災害に備えた屋内退避マニュアル」掲載  
(46ページ参照)
- ・令和4年 3月 総合訓練の記録動画をYouTubeで公開

### (4) その他

- ・令和3年10月7日 北海道議会総務委員会に訓練実施計画を報告
- ・令和3年11月4日 北海道議会総務委員会に訓練実施結果を報告

## 第2 代替オフサイトセンター開設・運営訓練

### 1 目的

原子力災害時にオフサイトセンター（共和町）が機能不全に陥った場合を想定し、代替オフサイトセンター（喜茂別町農村環境改善センター）の開設、要員・資機材の移転、運営など、代替オフサイトセンターへの機能移転に係る一連の手順の確認を行う。

### 2 実施日時

令和4年（2022年）2月22日（火） 13:00～16:00

### 3 主催

北海道、泊原子力規制事務所

### 4 場所【実動訓練場所】

共和町、倶知安町、喜茂別町

### 5 対象施設

北海道電力株式会社 泊発電所（3号機）

### 6 参加・協力機関

防災関係機関等 43機関（オフサイトセンター要員の参加 14人）

※住民参加はなく、防災関係機関のみによる訓練。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、訓練参加者を14名としたことから、WEB中継による訓練状況の情報共有を行った。

#### (1) 市町村 … <36>

泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、留寿都村、札幌市、小樽市、島牧村、黒松内町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、千歳市、北広島市、江別市、洞爺湖町、豊浦町、伊達市、室蘭市、苫小牧市、登別市、壮瞥町、白老町、むかわ町、安平町、厚真町、長万部町

#### (2) 消防機関 … <3>

岩内・寿都地方消防組合  
北後志消防組合  
羊蹄山ろく消防組合

#### (3) 関係省庁 … <1>

内閣府

#### (4) 指定地方行政機関 … <1>

海上保安庁第一管区海上保安本部

#### (5) 自衛隊 … <1>

陸上自衛隊北部方面隊

#### (6) 原子力事業者 … <1>

北海道電力(株)（本店、泊発電所）

## 7 訓練想定

北海道電力株式会社泊発電所3号機において、設備故障による事故が発生し、放射性物質が放出。国や関係自治体の職員がオフサイトセンターにおいて住民避難等の応急対策に当たる中、オフサイトセンターの通信機器等に異常が発生し、十分な機能を維持できない状況となったため、喜茂別町の代替オフサイトセンターを開設し、機能を移転する。

## 8 訓練内容

機能移転に係る調整及び情報共有を行うとともに、要員の移動や資機材の搬送など、代替OFCへの機能移転に係る一連の手順を確認した。

| 機 関                  | 主 要 活 動 項 目   |
|----------------------|---|
| 北 海 道<br>防 災 関 係 機 関 | <OFC><br><input type="checkbox"/> 機能移転に係る国・道・関係自治体等での調整及び情報共有<br><input type="checkbox"/> 要員の移転と資機材搬送に係る手順の確認<br><input type="checkbox"/> 代替オフサイトセンターの開設及び運営体制の確認 |

### <移転の手順>

|   |   |
|---|---|
| ① | テレビ会議（国－道－オフサイトセンター－代替オフサイトセンター－13町村）<br>・国の原子力災害対策本部からの移転の指示、移転計画の調整等<br>・道、関係町村との調整 |
| ② | 代替オフサイトセンターへの移転準備、開始<br>・要員の防護対策（防護服・個人線量計の装備、安定ヨウ素剤の服用）<br>・各種資機材、通信機器等の移転           |
| ③ | 要員等の汚染検査<br>・UPZ離脱時における要員の汚染検査（旧東陵中学校（倶知安町））  |
| ④ | 代替オフサイトセンターに到着<br>・要員による通信機器の動作確認等  |
| ⑤ | テレビ会議（国－道－オフサイトセンター－代替オフサイトセンター－13町村）<br>・移転状況の報告・共有                                  |

<要員の汚染検査>



旧東陵中

<代替OFCでの活動>



<原子力災害合同対策協議会>



代替OFC

### 第3 課題等整理表

#### 1 総合訓練

##### <関係機関等事後調査結果>

##### (1) 訓練全般に関すること

| 良好事項 (○) 課題・指摘 (●)  | 対応 (方向性) 助長策                             |
|---|--|
| ○執務環境 (ICT、コロナ対策等) が非常に良い。また、訓練に参加する関係機関もコントローラー役として各種条件の付与を行うと、より実践的でよい。   | 引き続き関係機関と協議し、より実効的な訓練となるよう訓練のあり方を検討していく。 |
| ●コロナ禍での開催であった為、マスク、フェイスシールドの着用が必要であり、声が聞き取りにくかった。   |  |
| ●訓練の大半が、決められた内容を決められたタイムスケジュールどおりにやっているだけである。ブラインド訓練の部分も一部あるが、有事に備えた訓練として十分ではなく、ブラインド訓練を主体に実施すべきである。  |  |
| ●詳細な訓練内容が要員に伏せられている「ブラインド方式」での訓練であり、訓練想定が年々複雑化されているため、難易度が高いと感じた。災害対応のために様々な想定が必要という趣旨は理解できるが、各機関の要員は毎年変わっていくので、基礎的な内容を重視し、より訓練想定をシンプルかつ明確にしても良いと感じた。 |  |

##### (2) 災害対策本部等設置運営訓練に関すること

| 良好事項 (○) 課題・指摘 (●)  | 対応 (方向性) 助長策                                |
|---|---|
| ○OFCなどから提供される情報資料を、役場内のシステムへ時系列で掲載し、情報共有を行った。また、災害対策本部員会議中に各自のPCで内容を確認しながら会議を進めることができた。 | 関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう対応していく。               |
| ○動態管理アプリを活用し、現場のライブ映像を確認することが出来た。   |   |
| ●役場への状況付与をより充実化させるため、コントローラーからだけではなく、役場側からの状況付与があってもよい。                                 | 関係機関と協議し、状況付与の内容や方法を再検討し、災害対策本部での活動を充実していく。 |



### (3) 緊急事態応急対策等拠点施設（OFC）運営訓練に関すること

| 良好事項（○） 課題・指摘（●）  | 対応（方向性） 助長策   |
|---|---|
| ○ブラインド訓練において、関係機関や地元町村から現場の情報を入手した上で、住民安全班と実動対処班が連携して、適切な迂回路を決定した。また、迂回路の検討・決定に当たり、全体スクリーンに図面を表示して説明を行うなど、OFC内への情報共有も適切に実施できた。  | 研修会や訓練等を通じて、引き続き、要員の対応力の向上に努めていく。                             |
| ○実動対処班において、班長不在時も副班長が統率をとり個別の対応に当たっており、班員が各々の役割を理解し、適切な対応を行った。  |   |
| ○避難状況の確認時に、自治体へ電話、FAXにて避難状況を確認し、結果を班長へ報告後、印刷し班内に共有していた。また、確認後に印刷物へ各人がサインしており、確認漏れを防ぐとともに記録を残す点から有効であった。   |   |
| ○館内放送やモニター表示等は必要な情報が適切に表示されていた。   | 研修会や訓練等を通じて、引き続き、館内設備の使用方法を周知するとともに、情報共有の方法及び情報共有内容の改善を図っていく。 |
| ○ホワイトボードを活用して情報を時系列で整理・共有するとともに、医療班では、特記事項は色を変えて記述する工夫がされていた。また、町村からの地理に紐づく情報は地図を活用して整理・共有しており、情報整理・共有が適切に行われていた。   |   |
| ○プラントチームにおいて、訓練開始直後にインタラクティブホワイトボードを起動して、クロノロやプラント情報説明図、プラント時系列表等全員で共有したい情報を表示していた。   |   |
| ○訓練中に、OFC内の訓練参加者全員に感染症対策を適切に施す等、シナリオと実態をよりリアルに体现した訓練を実施しており、訓練の状況はよりリアリティーを迫及した完成度の高いものとなっていた。  | より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、状況付与を充実していく。                           |
| ○感染症流行下での訓練のため、班員の数が限定された訓練であったが、複合災害時には、参集予定人員の参集が困難な場合も十分に想定されるため、万一、人数不足となった場合を考慮した訓練となり、実効性の面で高く評価できる。次年度以降も、他班への応援依頼、休息や夜間を想定したローテーション対応など、現実の状況に近い場面設定とすることで実効性が向上すると感じた。 |   |
| ●参集要員の受付に時間を要していた。受付の管理は紙ではなく、電子媒体で行ったほうが良い。  | 電子媒体の活用や受付レイアウトの改善など、円滑な受付管理の実施に向け、検討していく。                    |

|   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●OFC内での適度な緊張感を保つためにも、事象の進展があった場合など、一斉指令放送や館内放送などで発話する頻度を増やした方がよい。</li> </ul>   | <p>より適切な情報共有が実施できるよう、一斉指令及び館内放送の使用方法等について検討し、研修会や訓練などで周知していく。</p>        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●OFC館内放送の音量が大きすぎる場合や聞こえない場合があった。また館内放送とTV会議音声がかぶって聞こえ、聞き取りにくかったため、音声の調整方法について検討が必要。</li> </ul>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●総括班において、事業者通報の原災法第10条と15条の判別に混乱し、対応に時間がかかった。</li> </ul>   | <p>研修会や訓練等を通じて、引き続き、班内の情報共有の徹底や要員の対応力の向上に努めていく。</p>                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●複数事象が発生した際、班長が一つの事象にかかりきりになり、初動が遅れるケースがあった。事前に複数事象が発生した際の指揮命令系統について、整理が必要。</li> </ul>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●班長会議、事故連、合対協の内容について、会議後に班長から班員全員への結果の周知が必要。</li> </ul>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者通報を受理した際、館内放送が行われない場面があった。機能班マニュアルに則り、プラントチームから館内放送及び現地本部長への報告・共有を行う必要がある。</li> </ul>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●自衛隊内のネットワークを活用して情報共有できたが、原子力防災システム(NISS)の端末が少なく、他機能班との共有がややできなかった。自衛隊ブースにシステム端末を設置し、情報共有できる環境が必要。</li> </ul>                                      | <p>OFC内の設備やシステムについて、より実効的なものとなるよう、内閣府及び原子力規制庁に対し、関連設備の整備等について要望していく。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●広報班ブースは電話が少ないため、増設が必要。</li> </ul>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●オフサイトセンターで使用するシステム「原子力防災システム(NISS)」の使い勝手が悪い。自班に特に関係のある重要な情報と、重要度は低いと全体に周知しておく程度の情報が混在していて見づらい。有事の際には、情報が錯綜して混乱する可能性があるため、システムを改善してほしい。</li> </ul> |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●副町村長待機場所に全体スクリーン等の映像を表示するモニターがないが、情報共有のため設置が必要。</li> </ul>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●テレビ以外の外部情報(ラジオ、SNS等)を確認できるようにすることで、OFCからの情報発信が正確に伝達されているか判断可能となるため、外部情報をリアルタイムで確認できる機器の導入について検討が必要。</li> </ul>                                    |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●紙、電話での情報を「原子力防災システム(NISS)」へ素早く登録し一元管理するために、スキャナーの増設や電話録音機能の導入など、情報のデジタル化の検討が必要である。</li> </ul>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●原子力防災専用回線が導入されていない機関に対して、外部メールを使用できるようにした方がよい。</li> </ul>   |  |

|  |   |
|--|---|
| <p>●「原子力防災システム（NISS）」において件名を見ただけでは内容がわからない表記が散見された。クロノロの記載要領は、「（〇〇班から）△△について連絡」というように、内容が理解できるよう入力すべき。</p>                     | <p>システムの使用方法について、引き続き、研修会や訓練等を通じて周知していく。</p>                    |
| <p>●実動対処班の各実動部隊との連携・調整に係る訓練として、実動対処班内の各班員が自機関の部隊等派遣の可否を判断・調整し、実動対処班として全体の最適化をする場面が必要。</p>                                      | <p>要員活動を充実化し、対応能力の向上につながる実効的な訓練となるよう、関係機関と協議し、状況付与等を検討していく。</p> |
| <p>●住民安全班において、避難、一時移転の対象とならない自治体の要員は、対応しなければならない活動が少なかったため、班内の役割分担を臨機応変に変更するなど、避難、一時移転の対象とならない自治体の要員についても状況付与等で活動を促すことが必要。</p> |   |

#### (4) 緊急時通信連絡訓練に関すること

| <p>良好事項（○） 課題・指摘（●）</p>   | <p>対応（方向性） 助長策</p>                                     |
|---|--|
| <p>○日頃から通信訓練を実施している成果もあって、スムーズな情報共有が実施できた。</p>  | <p>引き続き、研修会や訓練を通じて、適切な情報共有ができるよう、各要員の対応力の向上に努めていく。</p> |
| <p>○FAXや電話による連絡が適時行われており、通信連絡の内容も明確なものとなっていた。</p>   |  |
| <p>○足を運んで訓練に参加していない市町村にもメールにより情報共有が図られ、本番さながらの緊迫感が伝わり良好であった。来年度以降も継続実施をお願いしたい。</p>                  |  |
| <p>○必要な情報を適時に獲得し、緊急時連絡体制に問題ないことを確認できた。担当者以外の職員を参加させることができれば更に体制の強化につながるものと思料する。</p>                 |  |
| <p>●役場本部の中で通信連絡担当者が不在の場合に備え、有事の際は誰でも対応できるようにする必要がある。</p>  |  |
| <p>●UPZ 外の市町村への通信連絡はメールだけの訓練であり、短時間で終了する半面、本番災害では「電話連絡」もあるのではと感じており、希望する機関には、「電話連絡」の実施も検討してほしい。</p> | <p>関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう対応していく。</p>                   |

#### (5) 緊急時モニタリング訓練に関すること

| <p>良好事項（○） 課題・指摘（●）</p>  | <p>対応（方向性） 助長策</p>   |
|--|--|
| <p>○「原子力防災システム（NISS）」の情報について班全員で声を掛け合い確認するなど、EMC 内の情報共有は適切に行われた。</p> | <p>引き続き、OFC 館内の設備やシステム等、資機材に係るより効果的な使用方法について検討していくとともに、内閣府及び原子力規制庁に対</p> |

|  |   |
|--|---|
| ○要員及び資機材等の動向管理や要員被ばく管理情報を一覧化した Excel ファイルを使用し、効率的に管理を行うことができた。複数人で同時作業できるとなおよい。                | し、関連資機材の整備等について要望していく。  |
| ○指示書(案)を大型モニターに表示して協議することにより、指示書内容の検討・作成を短時間に実施できた。モニターの充実や、複数端末からのアウトプットが可能となれば、さらに便利になると感じた。 |   |
| ○測定分析班では、各種指示事項を PC 内で管理すると同時にプロジェクタで壁に情報を投影し、情報の共有を図っていた。                                     |   |
| ○放射線モニタリング情報共有・公表システムが新システムに更新されたが、事前訓練で使用方法を確認したうえで、当日の訓練に臨むことができた。                           | 引き続き、新システムの使用方法について、訓練等を通じて周知を図るとともに、原子力規制庁に対し、システムの改善について要望していく。               |
| ●新放射線モニタリング情報共有・公表システムが導入されたこともあり、モニタリングデータの欠測確認までに時間を要するものがあつた。                               |   |
| ●訓練初期段階で、気象情報についての情報提供が不十分だった。   | OFC 内での適切な情報共有が図られるよう、周知の徹底を図る。   |
| ●班内の役割のローテーションまでは行わなかったが、各要員が複数の役割をこなせるように訓練すべき。   | 事前訓練等を通じて、引き続き、モニタリング要員の能力向上を図る。  |
| ●モニタリング情報や会議資料が共有されなかった。   | モニタリング情報や会議資料は共有フォルダや「原子力防災システム(NISS)」で共有されているため、訓練等を通じて、各種情報の取得方法についての周知徹底を図る。 |
| ●各要員の役割を踏まえ配席に工夫があるとよい(測定分析担当(総括班):9町担当⇒FAX側、OFC担当⇒コピー機側)(企画調整G:原本管理担当⇒原本ファイル近く)               | 各G内での役割分担を含め、引き続き、より効率的な運用を検討していく。  |
| ●総括連絡班から実働班への指示書に、総括連絡班の連絡先や連絡のタイミング等が記載されていないものがあつた。  | 訓練等を通じてモニタリング要員の能力向上を図るとともに、指示書の内容についてより分かりやすく明確なものとなるよう、引き続き検討する。              |
| ●各班要員の所属・氏名表示(ガムテープに記載して貼付)について、各班を色分けするとより分かりやすい。   | 複数色のガムテープを準備するよう検討する。   |
| ●不慣れな要員の参加等により、初動の遅れが生じたり、指示の変更にスムーズに対応できない場面があつた。   | 訓練等を通じてモニタリング要員の能力向上を図るとともに、予備要員を含めた要員の確保・要員経験者の拡大に努めていく。                       |

## (6) 広報訓練に関すること

| 良好事項(○) 課題・指摘(●)  | 対応(方向性) 助長策                    |
|---|--------------------------------|
| ○日頃から街頭宣伝等を実施しているため円滑な広報ができた。                                   | 訓練等を通じて、引き続き、各要員の対応力の向上に努めていく。 |
| ○消防と役場で連携し、混乱なく実施できた。今後、人員増加及び車両を増車し、さらに効率よく町内広報を実施できるよう検討していく。 |                                |
| ○防災行政無線、広報車(消防に協力要請)、エリアメールを用い、円滑に広報を行うことができた。                  |                                |

|   |  |
|---|--|
| ●現行の方法の他に地域住民に限定したツールを使用し広報をするべき（事前登録した携帯電話 E-Mail など）。 | 多様な広報ツールの活用による実効的な広報を実施できるよう、関係機関と協議し検討していく。 |
|---|--|

## (7) 住民避難手順の確認訓練に関すること

| 良好事項 (○) 課題・指摘 (●)   | 対応 (方向性) 助長策   |
|--|--|
| ○「防護施設の運用」・「ヨウ素剤配布」・「装甲車による避難」が一連の流れとして体感でき、災害の進展を意識した訓練となっていた。  | 要員の対応力向上につながる、より実効的な訓練となるよう、引き続き、関係機関と協議し、訓練内容を検討していく。 |
| ○放射線防護施設訓練において、役場から連絡を受けてから出入口エリアの設定が円滑に行われていた。また、職員による声掛けにより順序良く養生等をおこなっており、出入口設定の手順を確認できた。                               |  |
| ○原子力災害と風水害の複合災害の状況下であり、速やかな避難が求められ、かつ車両等で救難困難な場面であったため、ヘリを使用した避難は実践的であり良好であった。   |  |
| ○ヘリによる救助訓練について、建物の屋上を使用した狭隘地での救助訓練となり貴重なものであった。狭隘な建物の屋上であれば、接地はできないものの、超低空ホバリングやスキッドの一部接地により速やかに、かつ大量の人員の救助が可能であることを確認できた。 |  |
| ○悪天候（雨天）の中であったが、自衛隊ヘリによる避難住民の吊り上げ救助訓練では、ケガ人を想定した住民の救済に担架を用いる等救出が滞りなく行われ、厳しい条件下でのヘリによる救出手順が確認できた。                           |  |
| ○装甲車による避難について、装甲車の取り回しが大変そうで狭い場所で困難もあるかと感じたが、整然と避難が完了し、手厚い避難体制が実践されていた。  |  |
| ○避難所開設訓練にあたり、訓練の目的や意義などについて事前に講義を行い、共有意識をもって訓練に取り組んでおり、講義で、訓練参加者の意見交換などを行う機会を設けることも有効であると感じた。                              |  |
| ○避難所設営訓練において、避難設営未経験の要員が多かったが、受付、体調不良者の分離や感染症対策の要領や留意点などについて、本訓練を通じて体得できたと思う。  |  |
| ○役場のバス集合場所にて、安定ヨウ素剤、避難経路等の説明が丁寧に実施されており、避難住民に対する不安を軽減することができていた。   |  |
| ○事前に避難元自治体と打合せし、円滑な一時滞在場所の開設ができた。今後も平時から顔の見える関係性を構築し、非常時に迅速な対応ができるよう連携をとりたい。   |  |

|  |  |
|--|--|
| <p>●放射線防護施設訓練において、レイアウトを完全に把握している職員が1・2名しか見受けられず、次の工程が分からず指示待ちのようになっている時間があつたので、職員への研修・教育機会の増加や、壁等に手順について張り出しするなどの工夫が必要。</p> | <p>訓練等を通じて、引き続き、対応力の向上に努めていくとともに、より実効性のあるマニュアルや会場レイアウトとなるよう検討していく。</p> |
| <p>●避難所開設・運営において、対応経験が少ない者もあり、時間を要していたため、平時から運営マニュアル等について確認しておくことが必要。</p>  |  |
| <p>●避難住民の受付場所等のレイアウト図や案内表示について、文字が小さくて見づらい場所があつたので、各種掲示について、可能な限り拡大し、目立つような掲示となるよう工夫が必要。</p>                                 |  |

### (8) 原子力災害医療活動訓練に関すること

| <p>良好事項 (○) 課題・指摘 (●)</p>   | <p>対応 (方向性) 助長策</p>                             |
|---|---|
| <p>○被ばく傷病者搬送訓練において、消防組合がリエゾン派遣してくれたのは情報共有という点でとてもよかった。</p>                                    | <p>訓練等を通じて、引き続き、要員の対応力の向上に努めていく。</p>            |
| <p>○航空機のスクリーニング・除染を実施したことにより、航空機の除染場所とは別に、航空機のエンジンを止めて一時退避できるスペースを確保が必要と把握できた。</p>            | <p>訓練等を通じて、引き続き、要員の対応力の向上に努めていく。</p>            |
| <p>○除染に使用した水の処理は、壇状にした防水シートの上に置いたポリ容器へ貯留しており、適切に処理できた。また、長時間運営する上での部隊交代等の引継ぎ要領についても確認できた。</p> |   |
| <p>○車両受け入れ時に、北海道電力・自衛隊・道庁間において、無線機による連携が適時適切に行われていた。</p>                                      |   |
| <p>○指定箇所検査において、放射線技師の説明が丁寧でわかりやすかった。</p>  | <p>より実効的な訓練になるよう、引き続き、関係機関と協議し、訓練内容を検討していく。</p> |
| <p>○今回は住民ではなく職員への検査であり、また時間に余裕があつたことから、検査の都度、反省改善して、疑問点を経験者に質問する時間があり、有意義であつた。</p>            |   |
| <p>○会場設営等の事前準備から参加することで、検査体制の流れを一から確認することができて良かった。今後も、事前準備には積極的に参加していきたい。</p>                 |   |
| <p>○住民参加がない状況下であっても、手順習熟機会の確保のため、一台のバスを複数回受検させるなどの工夫が見られた。</p>                                |   |

|   |  |
|---|--|
| <p>○住民検査会場内には救護所（テント）が設けられており、体調不良者への配慮がされていた。また、住民の携行物品についても、ポリ袋に入れる等適切な対応を確認することができた</p>  | <p>より実効的な会場配置となるよう、引き続き、関係機関と協議し、検討していく。</p>   |
| <p>○キロロリゾート建屋 1 階の住民検査場所は、入口での検温・手指消毒が適切に実施され、受付・検査の動線も明確になっていた。</p>  |  |
| <p>○動線もしっかり広く確保され、個人のプライバシーが守られるような設営でよいと感じた。</p>   |  |
| <p>●汚染人員に対する検査・除染の一連の対応が確認できたものの、歩行不能者、負傷者の対応は未検討。負傷者等への対応や放射性物質が除去できなかった場合の医療従事者との連携について訓練が必要。</p>                               | <p>要配慮者への対応や、より要員に負荷をかける訓練状況の設定など、引き続き、実効的な訓練になるよう関係機関と協議し、訓練内容を検討していく。</p>              |
| <p>●今回の訓練では、スムーズな対応がなされていたが、実際の災害時には、住民が来ない時間と一齐に来る時間が予想されるので、あえて避難車両を混雑させ、負荷をかけるシナリオも良いと思う。</p>                                  |  |
| <p>●被ばく傷病者搬送について、事業者と救急隊との引き継ぎはスムーズに実施できたが、救急隊の業務が搬送のみとなっているので他部署との連携が不安である。傷病者の設定をより詳細にし、途中変化も伴うような内容とすれば、事業者側と救急隊の連携訓練に繋がる。</p> |  |
| <p>●大雨が降る中での訓練となり、記録用紙に耐水紙を使用したため、雨で濡れても破けることはなかったが、筆記用具についても耐水のものが必要であった。</p>  | <p>悪天候時に備えた配置や物品を用意するなど、より実効的な会場配置となるよう、引き続き、関係機関と協議し、検討していく。</p>                        |
| <p>●雨天、強風下で気温も低かったため、体力的に非常に厳しい作業環境であった。災害時は、長時間の活動となることも考慮し、車両の切れ目に要員が暖を取れるようなスペースの設置を検討すべき。</p>                                 |  |
| <p>●住民検査受付時に、住民が使い捨てシューズカバーを履く場面で、要配慮者はカバーを履くときに転倒するおそれがあるため、補助用のイス等があるとよい。</p>   |  |
| <p>●訓練終了の予定時間に合わせて、早く段取りを終わらせてしまう場面があった。手順を過度に省略することのないよう、進行要領を見直す必要がある</p>   | <p>訓練のための対応とならないよう、実際の災害対応を意識した適切な対応をとり、より実効的な訓練になるよう、引き続き、関係機関と協議し、訓練の実施方法等を検討していく。</p> |
| <p>●車両の受検順が原則固定となっていたため、各車両への発車のタイミングを運営担当者が携帯電話等で連絡することとなり、無用な負荷がかかっているように感じられた。バスの到着順は決めずに、臨機の対応ができるような運営体制にした方がよい。</p>         |  |

|  |   |
|--|---|
| ●過去訓練の情報や反省点を事前資料として配布、共有することで、より実効性の向上につながると思う。 | 過去の教訓事項を研修会等を通じて共有し、引き続き、要員の対応力の向上に努めていく。 |
|--|---|

## (9) 電力供給訓練に関すること

| 良好事項 (○) 課題・指摘 (●)  | 対応 (方向性) 助長策                             |
|---|--|
| ○雨天による悪条件下でも円滑な作業により、確実な電源供給の手順について確認することができた。  | 訓練等を通じて、引き続き、対応力の向上に努めていく。               |
| ●有事の際は道に対する報告は以下の2点で十分と考えるため、次年度以降の訓練におけるシナリオは、以下の2点のみの報告とした方がよい。<br>・発電機車の到着および送電準備開始の報告 | より実効的な訓練になるよう、引き続き、関係機関と協議し、訓練内容を検討していく。 |

## <北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員による評価結果>

### (1) 訓練全般に関すること

| 良好事項 (○) 課題・指摘 (●)   | 対応 (方向性) 助長策                             |
|--|--|
| ○今回は、新型コロナウイルスの影響から、規模は縮小されており、住民の方々の参加もなくやや寂しいものであったが、回を重ねるごとに洗練されていると思われる。 | 引き続き関係機関と協議し、より実効的な訓練となるよう訓練のあり方を検討していく。 |

### (2) 緊急事態応急対策等拠点施設 (OFC) 運営訓練に関すること

| 良好事項 (○) 課題・指摘 (●)   | 対応 (方向性) 助長策   |
|--|--|
| ○機能班の配置や OFC 内部の連絡体制は整っていた。  | 引き続き関係機関と協議し、要員が OFC での活動をより円滑に実施できるよう、館内設備等について検討していく。                                      |
| ●OFC 備蓄品の中に女性用下着も入れておくが良い。   |  |
| ●感染症対策 (体温測定・手指消毒等) は徹底されていたが、OFC 内で感染者が発生した際の対応 (隔離所や検査体制) がよく分からなかった。オフサイトセンター内での感染隔離も考慮に入れられると素晴らしいと思う。 | 引き続き関係機関と協議し、対応方法や訓練での実践などについて検討していく。  |
| ●建物の出入り管理ならびに汚染検査を行っていない。どのように運用するのか明確にしておく必要があると思われる。   | 放射性物質放出後の屋外活動要員専用出入口で汚染検査などの出入り管理は実施しているが、出入り管理時には館内放送による OFC 内への適切な情報共有を行うなど、出入り管理の周知徹底を図る。 |
| ●オフサイトセンターの出入りについて、本当に事故が生じた場合、外部との出入りが必要となる方々の汚染検査や除染行為を十分行えるのかやや不安を感じました。                                |  |



### (3) 住民避難手順の確認訓練に関すること

| 良好事項 (○) 課題・指摘 (●)  | 対応 (方向性) 助長策                      |
|---|-----------------------------------|
| ○装甲車到着から避難者が乗り込むまでの時間が短時間でできていた。避難者の避難優先順位付けの訓練などを組み込んでいくと更に良い訓練になると思われる。 | 引き続き関係機関と協議し、より実効的な訓練となるよう検討していく。 |
| ●自衛隊の装甲車内部の搭乗部分が養生されていなかった。放射性物質による汚染の発生を前提として車両を投入しているのであろうか。            | 関係機関と協議し、適切な対応となるよう検討していく。        |

### (4) 原子力災害医療活動訓練に関すること

| 良好事項 (○) 課題・指摘 (●)   | 対応 (方向性) 助長策  |
|--|---|
| ○訓練想定に従って豊富な人材と動線が組まれていて良好であった。実際の動線と流れ具合を確認するため、避難者想定の方を汚染と非汚染の2タイプで見たかった。外部評価員が避難者となり体験するのも良いと思う。                          | 誘導看板の設置や汚染検査後の動線の区分など、より適正な会場配置となるよう、関係機関と協議し、検討していく。 |
| ○動線を床に矢印で明示するなど、住民の混乱を低減する工夫がなされた会場設営であった。過去になかった対応であり、高く評価できる。今後も継続して頂きたい。  |   |
| ○限られたスペースで動線の流れは良好であった。  |   |
| ○避難者の手荷物を入れるビニール袋が用意されており、効率良く検査ができる工夫がなされていた。   | 引き続き関係機関と協議し、より厳しい条件下での対応についても検討していく。                 |
| ●検査会場の配置は概ね適正であったが、汚染者と非汚染者の動線が短い一部途中まで同一であった。床面を介した汚染が非汚染者に広がる可能性があるため、汚染判定後の動線は二手に完全に区分する必要がある。                            |   |
| ●自分が避難者と想定したとき、どちらに進むべきか分かりづらい箇所があった。防護服で案内の声が通りにくいことも考えられるので、立て看板等も用いて確実に誘導した方が良い。  |   |
| ●夜間の停電時想定での汚染検査や避難訓練も行うと良い。昼間の明るい室内のため分かりやすかったが、夜間の停電時避難もあり得るので、そのような暗黒時を想定した訓練も行えば、さらに動線がわかりやすく改良できるのではないか。                 |   |
| ●今回は雨天時での避難退域時検査訓練となったが、除染担当者が雨で濡れっぱなしの状態に見え、時間ごとの交代制や暖をとるような休憩場所は設定されているのか気になった。今後は降雪時の訓練も行われていくのであろうが、寒冷時の対策を積み重ねていくことが必要。 |   |

## 2 代替オフサイトセンター開設・運営訓練

### <関係機関等事後調査結果>

| 良好事項 (○) 課題・指摘 (●)   | 対応 (方向性) 助長策  |
|--|---|
| ○関係機関と一度に接続できるシステムを常時利用できるよう、Zoom 等の代替策を講じることは重要と感じた。  | ○通信機器の整備について、より実効的なものとなるよう、内閣府及び原子力規制庁に対し、関連設備の整備等について要望していく。 |
| ○移転先でも緊急時モニタリングを実施できるよう、移転先に持って行くべき資機材を確実に選定できた。   | 研修や訓練等を通じて、引き続き、要員に対する通信機器等の使用スキル向上を図っていく。                    |
| ○代替 OFC でも RAMIS を使用した放射線量率の監視、テレメータ可搬端末等、EMC 用 PC 等の通信機器等の動作確認を適切にできた。  |   |
| ○現地参加はできなかったが、事前配付されていた資料と ZOOM での映像をもとに、概ねの訓練実施状況を確認することができ、イメージを深めることができた。                                     | 訓練に参加できない機関に対しても訓練風景や手順等が確認できるような方法での訓練の実施を検討していく。            |
| ○訓練不参加機関等でも、ZOOM でライブ映像を視聴することで訓練状況をリアルタイムに把握することができ、有意義だった。   |   |
| ○先発隊到着後速やかに、各機能班を集めて通信試験等の実施に関する説明が行われるなど、機器の立上げ等が適切に行われていた。   | 研修や訓練等を通じて、引き続き、要員の対応力の向上に努めていく。                              |
| ○機器の接続方法等、不明点があれば運営支援班に聞くことができる体制であったことが良かった。  |   |
| ○今回の訓練のようにクロノロ等を利用し、形に残るように指示を出してもらえると、口頭のみよりも正確に行動できると感じた。  |   |
| ○合対協で、機能班や移転先自治体の意見や説明等情報共有が適切に行われていた。   |   |
| ○TV会議等を通じて適切な情報共有を実施できた。   |   |
| ○実際にタイベックスーツを着用し、一部のモノを運搬したことにより、実働時のイメージアップが図れた。  |   |
| ●防護服着用のままでの車両運転は困難であった。(タイベックがつっぱる等)   |   |
| ●ゴム手袋とガムテープの相性が良すぎて、ゴム手の指先がガムテープにつくと剥がれず、防護服の脱着に時間を要してしまった。可能であれば、養生テープのような粘着力の低いものを使用した方が、スムーズに防護服の脱着が出来ると思われる。 |   |
| ●後に出発した移動要員なので、先に到着した要員がどのような行動を実施済みなのか把握できなかったため、それらの情報共有を行うことが必要。  |   |
| ●通信状況等にもよると思われるが、代替 OFC への移転車両の映像や位置情報等が見える化されると、OFC 要員(後発隊)や視聴側で把握しやすくなる。                                       |   |
|  | 国や関係機関と協議し、追加すべき機器や必要な情報の取得方法などについて検討していく。                    |

|   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 今回の訓練はコロナ禍による規模縮小に伴い少人数での実施となったため滞りなく移転作業を実施することができたが、有事の際にはもっと大規模での移転作業が行われることに留意が必要。</li> </ul>                        | 引き続き関係機関と協議し、より実効的な訓練となるよう検討していく。                              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実際にOFCから代替OFCに移転することとなった場合に、継続した運営体制を維持できるのかについても検証する必要があるものと思料する。</li> </ul>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後は例年OFCで実施している訓練を代替施設で実際に行い、同等の活動ができるのか検証することも必要と思料する。</li> </ul>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 防護服に放射性物質が付着した場合、車内に汚染が拡大するので対処が必要。</li> </ul>   | 引き続き関係機関と協議し、要員移動時の防護対策の実施方法や検査時の動線などについて、より実効的な対応となるよう検討していく。 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 防護服のまま乗車した車両に、防護服脱衣後も乗車するので、念入りに車内の汚染状況を確認しなければ、被爆する恐れがあるので検討いただきたい。</li> </ul>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 防護服脱衣の際、脱衣前の人と後の人が混ざっていた。</li> </ul>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 養生したままの物品をクリーンエリアに置いていた。</li> </ul>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 運搬後のPC及びIP電話のLAN接続を誤り、立ち上がりに時間を要した。LANケーブルの色が同じで間違いやすいので、色を変える又はタグをつけて、明確に接続できるよう要望する。</li> </ul>                        | 通信機器に係る作業効率化について、国・通信事業者に要望していく。                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 雪が多い地域での汚染検査場所等の設置については、スペース確保のための除排雪が不可欠であるため、緊急時における検査場所を設置する自治体や地域の除雪業者等との除排雪業務に係る協力体制の構築（協定の締結など）が必要と感じた。</li> </ul> | 悪天候時の体制の構築等について、引き続き関係機関と検討していく。                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 悪天候により通行止めや交通障害などが発生した場合でも、汚染検査場所等の設置に必要な資機材の手配先を札幌市だけではなく、室蘭市や苫小牧市など複数の地域から手配できるような体制づくりが必要と感じた。</li> </ul>             |  |

### <北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員による評価結果>

| 良好事項 (○) 課題・指摘 (●)   | 対応 (方向性) 助長策                               |
|--|--|
| ○代替オフセンター設置訓練は今回初めてであったが、こうした事態も生じうるので、適切な設定であった。また、喜茂別町長も現場に来られており、周辺自治体が積極的に取り組んでいることが確認できた。 | 引き続き関係機関と協議し、より実効的な訓練となるよう検討していく。          |
| ○代替オフサイトセンター内の機材等は機能的に配置されているとの印象があった。   |  |
| ○通信機器の確認、情報共有は概ね良好であった。  | 引き続き関係機関、通信事業者と協議し、機材の配置やレイアウト等について検討していく。 |
| ●電源コードリールのコードが巻いたままになっていた。この状態で使用すると放熱が十分にされずに火災につながる恐れがあるため、改善が必要。                            |  |
| ●1つの電源コードリールからコピー機2台分の電源がとられていた。コードリールの定格電流を超えているのではないか。                                       |  |

|   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●汚染検査場所での防護服の脱衣・梱包機材の取扱について、梱包用ビニール袋の表面や防護服の表面を素手で触れる等の行為が見られた。汚染拡大防止のための手順がやや不適切であった。</li> </ul>                              | <p>研修や訓練等を通じて、引き続き、要員の基礎知識の向上及び対応力の向上に務めていく。</p>    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●オフサイトセンターから搬出した物品にビニール袋による密封が不十分なものがあつた（具体的には、長靴を入れたビニール袋の口が開いたまま）。汚染防止のためには密封が望ましい。</li> </ul>                               |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●一部隊員の防護服襟元のチャックの締めが甘く、首元が半分ほど空いていた。</li> </ul>  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●多人数の場合（現場が騒々しい場合）にも、迅速・適切な情報共有が行えるかの検証が望まれる。</li> </ul>   | <p>引き続き関係機関と協議し、移転手順について検討していく。</p>                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●オフサイトセンターから代替オフサイトセンターまでの移動に相当な時間を要する場合の移動手順などは状況に応じて決める必要があり、移動する要員の順序などが成否に大きく影響すると思われる。</li> </ul>                         |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●車両の汚染が内部なのか、外部なのかの設定が不明確であつた。車両内部の汚染と外部の汚染で、対応方法が変わるかどうかも含めて、検討する必要がある。特に、車両外部は汚染する可能性が高いので、確保すべき代替車両数にも影響すると思われる。</li> </ul> | <p>引き続き関係機関と協議し、汚染検査場所におけるレイアウトや検査方法について検討していく。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●要員のスクリーニング場所において、車両と要員のスクリーニングを同時に行うのが時間短縮につながると思われる。</li> </ul>  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●要員のスクリーニング用テントと着替え用のテントを分ける必要はないと思われる。どちらもスクリーニングができるようにしておくと、汚染の有無に臨機応変かつ迅速に対応できるとと思われる。</li> </ul>                          |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●要員のスクリーニングテントに椅子を用意した方が良い。汚染検査、着替え、靴の履き替えが容易になる。</li> </ul>   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●今回は代替オフサイトセンターの会場設営は予め行われていたが、設営の一部を訓練に組み込むことが望ましい。</li> </ul>  | <p>引き続き関係機関と協議し、より厳しい条件下での対応についても検討していく。</p>        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●実際には地震や火災で電源喪失時での移転作業となるかと思うので、通信手法の詳細は不明だが、インターネット回線を利用せず、電話音声回線のみでの調整と情報共有の訓練もあると良い。</li> </ul>                             |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●災害時には停電も予想されるので、実際に自家発電機機を作動させての訓練についても検討が必要。</li> </ul>  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●今回は、OFCのテレビ会議システム、陽圧化装置は正常稼働との設定であつたが、これらの機器に障害が生じる場合についても検討する必要がある。</li> </ul>   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●冬季の状況想定をした上での活動の流れの確認だけでなく、そこに生じるあらゆる状況の想定をする訓練も必要ではないかと思われる。</li> </ul>  |   |

## ◆令和4年度（2022年度）訓練に向けた検討項目◆

- **意思決定訓練（OFC、災害対策本部など）の充実**
  - ・ OFC等の意思決定と住民避難等の実動の連動を通じた総合的な対応能力の向上
  - ・ 事態の推移に応じた円滑な活動体制の構築と防護措置の作成・取りまとめ手順の確認
  - ・ 実践的な状況付与を通じた訓練内容の一層の充実
  
- **EAL、OILに基づく防護措置に係る訓練の充実**
  - ・ 自然災害との複合災害を想定した住民・要配慮者の避難訓練の充実
  - ・ さまざまな状況による孤立地域を想定した対応力の向上
  - ・ 防災活動に従事する民間事業者等の安全確保対策の充実と連携強化
  - ・ 住民の積極的な訓練参加を促すための普及啓発の強化
  - ・ 外国人観光客等の円滑な避難誘導に向けた観光事業者の理解促進
  
- **原子力災害医療活動訓練の充実**
  - ・ 避難退域時検査（住民検査）における実施体制の強化
  - ・ 安定ヨウ素剤の円滑な配布
  - ・ 傷病者搬送における関係機関の連携強化
  
- **緊急時モニタリング訓練の充実**
  - ・ EMCを拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携
  
- **感染症対策を考慮した訓練の充実**
  - ・ 感染症対策を講じた OFC 活動や住民避難等の円滑な実施